

組合の強みを活かした新たな取組を
“伴走支援”で徹底サポート！

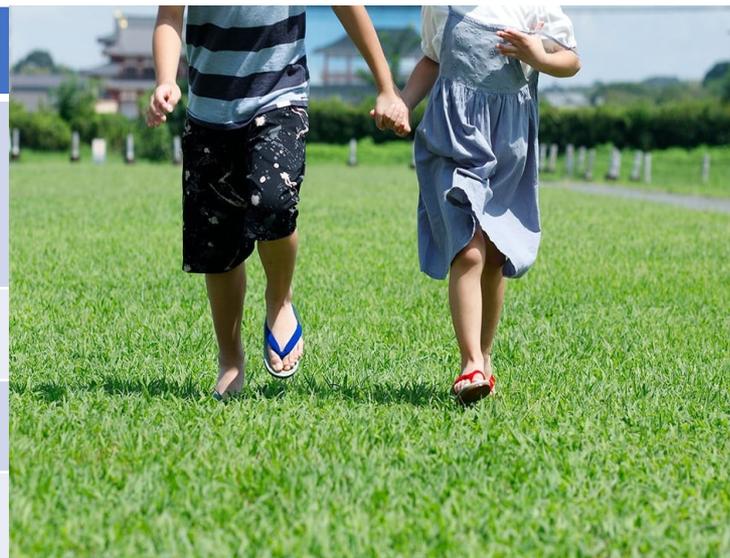
がんばる組合
経営力強化・再構築支援
プログラム2025

成果報告資料

ミサト履物協同組合

組合概要

組合名	ミサト履物協同組合
所在地	〒636-0821 奈良県生駒郡三郷町立野北1丁目 26番23号
設立	1952年5月
代表者	理事長 芝崎 安伸
組合員数	11事業所



【組合について】

奈良県三郷町は、「履物の街」。その歴史は古く、江戸時代に「わら草履」作りが原点。組合は、奈良県三郷町の伝統産業である履物製造を支える組織。信貴山の麓で熟練した職人の手作業により、「ケンコーミサトっ子」の製造を行っている。



【ケンコーミサトっ子について】

現代の子供たちの足の成長（土踏まずの形成など）を助けるために考案。天然のい草を使用し、鼻緒の位置を中央に設計することで、足指をしっかりと使って歩く習慣を促す。現在では全国の保育園や幼稚園で指定靴に採用されるなど、唯一無二のポジションを確立。

課題

熟練職人の高齢化 と後継者不足

- 熟練職人の引退により
鼻緒の供給が不安定
- 若年層の参入が限定的



技術承継の困難さ

- 高度な手作業技術が必要
- 属人的な知識



組織的な支援・育成体制の未確立

- 組合員の自助努力に依存
- 統一された技能継承の仕組みがない

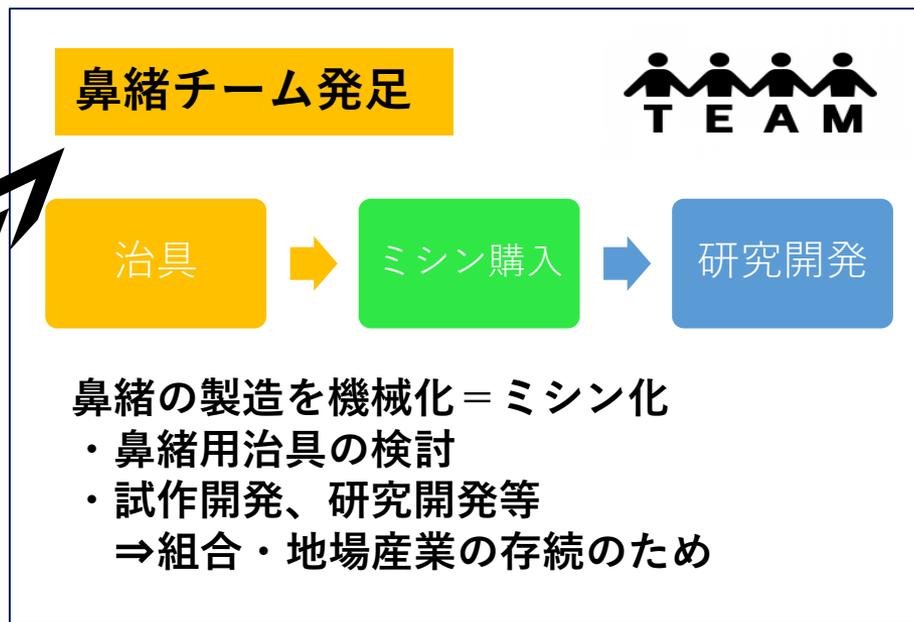
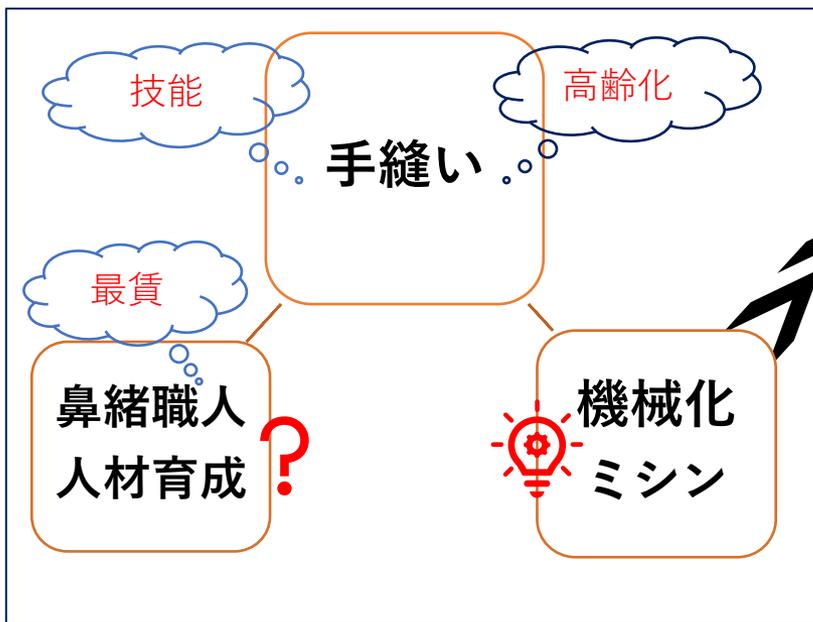


組合課題の認識

危機感の共有

課題解決のため
に...

実施結果



本事業を終えて…

(良かった点)

■意思決定のスピードアップ

集まる機会を設けたことで議論が円滑に進行

■解決へのロードマップ策定

具体的な解決策を見出すことができた

■危機の共有と自分事化

潜在的な危機感に対し、共通認識を持つことができた

(今後の目標)

■ミサトっ子の販路拡大

展示会や商談会、取引先との連携強化

■新商品開発

鼻緒の新素材開発や高価格製品開発

伴走支援について（中央会）

伴走支援の成果

Before

- ・危機感の欠如、現状維持バイアス
- ・形骸化した理事会



After

- ・自己変革への挑戦
- ・組合員一丸の結束

良かった点

- ・課題解決の必要性が共有・醸成され、強力な推進力となった
- ・空気が変わる瞬間を感じた

伴走支援の成果

- ・一つの目標に向かって一丸となって動き出したこと

今後に向けての想い

- ・対話を止めないで
- ・「小さな成功」を共有し、成功体験を積み上げて
- ・次世代への「タスキ」を

全体の総括

集合研修

- ・経営分析の実施
- ↓
- ・経営デザインシートの内容のヒアリングと討議を実施。
- ・課題は2点
 - ①販売数の減少
 - ②組合員（職人）の減少
- ・組合生産「ケンコーミサトっ子」の課題であり、産地全体の課題でもある。

- ・現状確認
- ・課題把握

傾聴

個別支援①

- ・傾聴、課題の具体化
- ↓
- ・産地全体にまで課題を広げず、まずは組合事業である「ケンコーミサトっ子」の生産の課題に絞って、検証・検討を進めることとした。
- ・主テーマ：手縫いしている鼻緒を、ミシンで縫えるか？

- ・課題の具体化

情報整理
フィードバック

個別支援②

- ・当初に目論んだ「産地全体の課題解決」では、テーマが大き過ぎると判断し、「内職に頼っている鼻緒の製造工程の機械化（ミシンの活用）」に絞ることとした。
- ↓
- ・組合にてミシンを購入し、ミシンを使った鼻緒の試作を目指す。

- ・当面の目標の具体化

傾聴

個別支援③

- ・ミシン購入の件、活動状況の確認。
- ・ミシン販売店（取次店）に相談。
- ・筒状の生地を裏返裏返せずに「祭縫い」にすることで、解決できそうである。
- ↓
- ・事前の確認を十分に行ってから、ミシンの購入を進める。

- ・実行性の事前確認

情報整理
フィードバック

個別支援④

- ・芯を入れた状態で祭縫いをするために、バインダーが必要であるとのこと。ミシン取次店は「ミシンを買ってもらってから」と考えているようである。
- ↓
- ・ミシン購入前に、バインダー製作の技術者に、実現可能性を確認する。

- ・実行性の事前確認2

傾聴

個別支援⑤

- ・ミシン取次店の協力を受け、技術検証が完了。
- ・早速、先緒用ミシンとバインダー、先付用ミシンと専用の押さえ足を発注。（近日中に納品される見込みが立っていた）
- ・今後の実機を使った技術検証に向けて、弾みが付いている状態。

- ・実戦に向けた検証へ

情報整理
フィードバック



事業概要

・足の健康な成長につながるオリジナル商品「ケンコーミサトっ子」の製造と販売。

経営方針との関係

・奈良県三郷町の伝統的地場産品である草履の普及の促進。
・オリジナル商品の開発・販売による収益確保。

事業概要

・現在の収益事業に加えて、組合員事業者の人手不足を補うために取り組む、「人材育成」と「機械化」の検討と実践。

経営方針との関係

・「伝統的地場産品である草履の普及の促進」「オリジナル商品の開発・販売による収益確保」を実現するために、人手不足の対応として、「人材育成」と「機械化」の検討と推進が欠かせない。

資源

ビジネスモデル

価値

資源

ビジネスモデル

価値

内部資源
・足の健康な成長につながる「ケンコーミサトっ子」という、オリジナル商品を持っている。 ・組合員には、草履づくりに関わる熟練の技術者が居る。
知財
・足の健康な成長につながる草履づくりのノウハウ。
外部調達資源（誰から）
・足の成長を研究する、兵庫教育大学名誉教授の原田碩三氏の指導。
知財

資源をどのように用いて価値を生み出してきたか
・熟練した草履づくりのノウハウと、子供たちの足の成長を促進するノウハウが合わさって、商品を産み出された。
誰と組んで
・兵庫教育大学の原田名誉教授。
提供先へのアクセス方法
・原田名誉教授の著書や、推薦を受けて広がった。
知財の果たしてきた役割

提供してきた価値
提供先（誰に）
・全国の保育園や幼稚園の児童。
何を
・足の健康を考えて作られた天然素材の草履「ケンコーミサトっ子」。
提供先から得てきたもの
・「ケンコーミサトっ子」の事業収入。

内部資源
・ベテラン組合員の持つ草履づくりの技術とノウハウ。 ・特に、「鼻緒等」の高いレベルの訓練と経験で培った技術が欠かさない。 ・いかに技術を継承するか？今後の重要な鍵の一つである。 ・また、機械化を含めた省力化の検討を進め、事業の継続性を高める必要がある。
知財
・足の健康な成長につながる草履づくりのノウハウ。
外部調達資源（誰から）
・組合内部にはない技術を活かす協働等、外部の技術者や研究者の協力を得る必要がある。
知財
よりハイレベルの製造の技術やノウハウ。

資源をどのように用いて価値を生み出すか
・組合に所属するベテランメンバーの持っている草履製造の技術やノウハウ、メーカーや工業技術センター等の研究者が持っているノウハウを結集し、鼻緒の効率的かつ効果的な製造方法を確立する。（内職に頼っていた鼻緒の製造工程の機械化を含む）
どんな相手と組んで
・ミシン等の機械メーカー ・工業技術センター等の研究者
提供先へのアクセス方法
・これまで通り、組合から提供。
知財の果たす役割
・機械化が「ケンコーミサトっ子」の製造を長く継続するための技術的基盤の一つになる。 ・有効な技術開発が進んだ場合は、それ自体が新たな経営資産になる。

提供する価値
提供先（どんな相手に）
・「ケンコーミサトっ子」を大切にしている個人、幼稚園、学校+a。
何を
・「ケンコーミサトっ子」の安定供給。
提供先から得るもの
・「ケンコーミサトっ子」の販売先と売上の維持・拡大による、収入の増加と安定化。

(+) これまでの外部環境	(-) これまでの外部環境
・広報役を担って頂いた原田碩三氏の発信が、子供の健康的な成長を求める親や園の意識を惹きつけた。	・スマホやゲーム機等のデジタルデバイスの普及により、外で遊び活動する子供たちが減少。
市場状況	
・子供達への教育の画一化や、服装のトレンド化が進む中、昭和回顧や昭和回帰による本物や本質を求める声、若者の中にも増えてきている。	

事業課題（弱み）
・草履（特に鼻緒）の生産を支える人材が手薄である。 ・主力メンバーの高齢化。 ・今のままでは、組合員事業者と組合、いずれの事業者も、求められる草履の生産ができなくなる。

「これから」の姿への移行のための戦略

(+) これからの外部環境	(-) これからの外部環境	必要な資源	解決策
・伝統的な祭の参加者の利用、寺社仏閣の神職や僧侶の利用等、安定したニーズが存在している。	・内職で鼻緒の製造に関わってくれている職人が、高齢化等で減っていく。賃金が安く、新たな就業者は期待できない。	・鼻緒の製造工程の一部を機械化する。（内職に委託していた工程）	・内職に頼っていた「ケンコーミサトっ子」の製造工程を、ミシン等の活用で、可能な限り機械化する。
市場予測	・ニーズが激減することはないが、徐々に減少していく恐れがある。 ・低価格で鼻緒の製造を手伝ってくれている職人が激減していく。	知財	・組合が中心となって培う新技術を、求める組合員に展開していくことによって、内職に頼った先緒の製造を機械化・効率化することが、産地全体の不安の解消に結びついていくと期待される。
移行のための課題	①・②高度な技術を含めて、機械化することの実現性。 ③草履職人の将来にわたる必要性、特に鼻緒職人については、草履以外の下駄等のニーズの獲得を目指していきたい。	・新たな鼻緒の製造工程と製造技術。	